

飼料米加工への加熱設備導入で、被災農地復興と畜産振興に貢献

株式会社福田商会

事業テーマ ▶ 被災農地復興に寄与する国産飼料米を利用した6次産業化ビジネス

◆創業以来チャレンジを続ける元気企業

株式会社福田商会は、米と有機質肥料の卸・小売業を事業の柱に明治19年に創業。当時から精米・精麦工場の電力による近代化や、いち早く外国産米の取扱いを開始するなど、他社に先駆けた事業に取り組み、拡大を続けてきた。そして、大正に入ると大手化学メーカーの仙台特約店、旧帝国ホテルにも使用された栃木県宇都宮市の大谷石の採掘販売、昭和6年からはセメントの取扱いを始めるなど、現在の事業領域である農業資材、飼料、建設資材等の卸売・小売という事業の土台を築いてきた。

昭和後半には、市街地にあった工場を仙台市東部工業団地に移転、その跡地にテナントビルや大型自走式駐車場を整備し、不動産賃貸業にも着手した。平成12年からは外資系ホテルブランド「ANAホリデイ・イン仙台」の経営を開始し、サービス業への参入も果たした。

現在同社は農業、建材、不動産、サービス等、多岐にわたる分野で事業を展開しているが、その拡大の背景には常にある思いが根差していたと、専務の福田大輔氏は話す。「大切にしているのは“ホスピタリティ”と“信頼関係”です。お客様のために何ができるか、地域社会のためにどんな取組が必要か。その思いの実現のために、今もなおチャレンジを続けています」。

◆農業と畜産業、両者に貢献する設備を導入

福田氏はかつて、休耕田の効果的な活用法として多収穫米を生産し、米からバイオエタノールを製造する研究をしていた経緯がある。その研究から派生して、多収穫米をもみ付のまま加熱圧ぺんし、肉牛の飼料として活用することも検討してい



た。宮城県畜産試験場と共同研究を行い、グループ企業であるフクダ物産を通して飼料(外国産大麦・トウモロコシ)を供給する畜産生産者や配合飼料メーカー等を取引先として事業を展開しようとした矢先、東日本大震災が発生した。

大津波によって、宮城県沿岸部の農地約1万4,300haが浸水した。農地は除塩後に大豆等が植えられたが、塩害でうまく育たなかったという。そこで福田氏は、土中の塩分を水で流しながらの生産が可能な米を育てればよいのではないかと考えた。「震災前に検討していた飼料用米を被災農地で生産することで、被災生産者の収入増大に貢献できる。また供給先の畜産生産者にとっては、価格が乱高下する外国産の飼料に比べて国産の飼料用米の方が価格安定のメリットがある。そして当社にとっても新しいビジネスが推進でき、三方よしの事業に発展すると考えました」。

事業開始にあたり、同社は飼料用米の加工には設備投資が必要であると判断。ものづくり補助金を活用し、圧ぺんの前処理である飼料米の高温蒸気による加熱に必要な小型貫流ボイラーおよび周辺設備を導入した。

◆本事業の実績が認められ栄誉ある賞を受賞

ボイラーが新設されたことにより、既存ボイラーに比べてエネルギー効率を10%以上向上させることができた。熱量も十分で、製品の品質も一定して確保できているという。

また宮城県畜産試験場の調査によると、大麦・トウモロコシ等の既存飼料の代替として飼料用米を与えた肉牛に関して、肉質は変わらず旨味成分であるオレイン酸の数値が上昇、A5



導入されたボイラーで飼料用米を糊化する



ボイラーで加熱後、飼料用米を圧ぺんする

ランクの格付けが可能であるという結果が出ており、国産牛の新たな魅力の開発に寄与するかたちとなった。

被災農地活用、畜産経営の安定や食味の向上のみならず、大局的には食料自給率の向上や輸送段階での環境負荷低減(温室効果ガス排出量の削減)にも繋がるなど、多様な価値をもたらす本事業は、平成25年度日本商工会議所青年部ビジネスプランコンテストにて、秀逸な内容であるとして日本商工会議所会頭賞(グランプリ)を受賞。現在は同社に欠かせない事業の一つとして展開されている。

◆全国の同志と共に農商工畜産連携に取り組む

平成29年、同社は飼料用米の生産者との契約から、約500haの農地で収穫される約3,000tの飼料用米を仕入れ、加工を施す予定だ。加工は、加熱圧ぺんに加えて、粉末状のもみ付ばん碎も行い、肉牛はもとより乳牛、豚、鶏への給餌も推進していく。

本事業が本格稼働したことにより、同社は飼料用米の生産者と、これまで以上に親密な信頼関係を構築することができたという。土壌改良や肥料設計、流通まで協働できる体制が整い、それに付随して肥料や農業資材の売上に貢献するなどの相乗

効果によるメリットも享受することができた。

福田氏は今後、本事業の一切を他地域の同業他社と共有し、同じ思いを持って農商工畜産連携に取り組みたいと話す。すでに北海道、関東、関西から視察に訪れた企業もあるという。

「各地域から同じ思いで国に提案すれば、政策を練る方により現実味を持っていただけるでしょう。この取組を仙台だけにとどめず、全国に発信していきたい」と今後を見据える。

会社概要

会 社 名	株式会社福田商会
代 表 者	代表取締役 福田 喬
所 在 地	宮城県仙台市若林区新寺1-4-5
資 本 金	2,000万円
従 業 員 数	48名
業 種	卸売・小売業
設立年月日	明治19年2月
TEL	022-256-0186
FAX	022-256-0191
EMAIL	kanri@fukuda-bussan.com
URL	https://www.fukuda-bussan.com



多様な長所のある事業で地域と世界に貢献します

被災農地で飼料用米を生産し、当社で加熱圧ぺんまたはばん碎後、畜産生産者に供給して肉牛等に給餌するこの取組は、地域の生産者の皆様への貢献に加え、大局的には2つの長所があると考えます。1つは、日本の食料自給率の向上です。現在の日本の食料自給率は、畜産物に与える輸入飼料の消費量が増え長期的に低下傾向です。しかし輸入飼料を国産の飼料用米に代替できれば、食料自給率向上に貢献することができます。もう1つは、環境負荷の低減です。コンテナ船とトラックで輸送する外国産飼料に比べて、当社から5~10km圏内から運ばれる飼料用米の方が、はるかに温室効果ガスの排出量は少なくなります。こうした側面からも、本事業の有効性は明らかです。これからも関係各所と協力して、本事業のさらなる拡大のために努力していきたいと考えています。



代表取締役専務／福田 大輔 氏